

逍遙館長のところ

「西洋文明と9月のところ」

9月12日 逍遙



今日9月12日は、日本で初めて新橋～横浜間に鉄道が本開業した日です。その一方で、私は、「南洲翁遺訓」の中に、現代にも通じる警鐘（＝安易な西洋文明の模倣に対し、人身浮薄に流れる、と警告）を強く感じるのです。

西郷さんが生きた時代は、世界で巨大な情報通信革命やエネルギー革命などが急速に展開していた時代です。と同時に、溢れ出た情報が、諸々の軋轢や鬱屈する不満を生み出し、暴力に訴える時代がやってきていました。ある意味、第四次産業革命が急速に進展している今の時代にも通じる状況でしょうか。

当時の日本が国の独立を保つためには、「半文明国」から「文明国」側に入るしかない、という国際的環境下であって、それまで日本社会を支えてきた様々な価値観が見捨てられ、置き去りにされ、大転換を余儀なくされたのです。

明日13日は中秋の名月。偶には、昼間の黎明館の静寂の中で、夜は名月の下で、身の回りに氾濫する情報を全て断って、無になってみるのもいいのでは。

◎ 次回の予定「厳格と寛容のあいだ、のところ」

